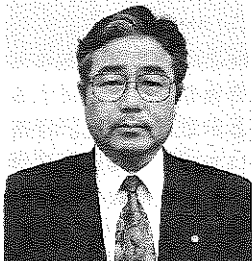


# 栃木県中学校長会報

## 中学校長全員の力の 結集を期待して



栃木県中学校長会  
会長  
宇都宮市立旭中学校  
校長 金子隆郎

今年度、計らずも会長を拝命いたしました。力不足ではありますが、全力を尽くす所在ですのでよろしくお願いいたします。

本会は、本県中学校教育の充実発展のために、教育委員会並びに関係各機関団体の御指導と御援助のもとに、これまでにも中核的役割を果たしてきました。最近においても、今回実施されている教育課程の基準としての新しい教育観に基づく教育の実現を目指して校長自らが研究実践を進めるとともにこの新しい教育の実現を可能にするための広範囲にわたる諸条件の整備に努力して参りました。

本年度においても、これまでの先輩の皆様取り組みを引き継いで、新しい中学校教育の充実のために教職員の先頭となって努力していかねばなりません。

さきに行われた総会において、本年度特に重点をおいてその実現に努力することとして、創意ある教育課程の編成・実施と個性を生かす教育の推進、自他の生命を尊重し、主体的に生きる生徒を育てる教育の推進、学校週5日制の月2回実施に伴う学校運営の充実、教職員給与の見直しならびに勤務条件の改善、第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画の完全実施、多様な教育活動に対応するための施設設備の充実、生徒の体育・文化活動充実のための諸条件の整備、学校・家庭及び地域社会の教育と三者連携の見直し、登校拒否等学校不適應生徒への積極的な対応、中学校教育の趣旨に即した高等学校入学者選抜の改善など、20を超える重点目標を掲げてその実現や解決に努めることとしたところであります。

また、いじめの根絶を目指す取り組みを始め、

望ましい進路指導、人間尊重を基盤とし差別の解消を目指す同和教育の推進は、重要な課題として各学校の積極的な実践が必要であり、校長会としてもそのための組織的な取り組みが必要であります。

次に、中学校長会が教職員の皆さんを始め多くの関係者の皆さんや関係団体から支援を受け、協力をいただいている最大の理由は、校長自らが常に向上心を持ち、組織的な研究活動が続けているということだと思います。専門部の一つである研修部を中心に、会員全員が集う研究大会における研究発表と講演を始め、各地区研修会など、共通テーマのもとに実践研究を継続し、中学校教育の振興に資することが重要であります。

全日本中学校長会においても、本年度から新しい研究主題として「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」を掲げて研究が進められています。さきの関東甲信越中学校長研究大会埼玉大会においても、本県を代表して平山一藏校長先生（黒磯北中）が研究発表をされました。お互い校長として多忙な職務にあっても、研究と修養を欠かさない姿勢こそ、校長としてあるいは校長会として最も大切なことではないかと思えます。

更に、本県教育界が、他から注目されるほど、安定した零囲気の中で教育活動に専念できることは、日常それが当然のことのように思われがちですが、実は大変に貴重なことであります。教職員の皆さんは、職務に対して忠実で、熱心に日々の教育実践に取り組んでいます。管理職である校長や教頭に対しても、協力的であり、含むところなく同僚として接してくれています。このような職場の零囲気は、まさに私たちの先輩の多くが、長い年月をかけて醸し出され、つくられてきた貴重なものであります。

私どもは、校長としてそれを甘受するのではなく、先輩の心を心とし、教職員とともに歩み、悩み、試み、まさに苦楽を共にする姿勢をもって、この望ましい零囲気を育て、残していかなければならないと思えます。

終りに、本県が推進している教育運動「いきいき栃木っ子3あい運動」の今後一層の推進を通し、校長会の目指すものがより充実した形で実現することを期待したいと思います。

### 「あそび」と「ゆとり」 保護者や仲間と手を取りあって



栃木県中学校長会副会長  
宇都宮市立横川中学校  
校長 松本 忠

「遊び」というと、どんなことがイメージとして浮かんでくるだろうか。勤勉な日本人にとって賭けごとか酒宴などのように、ややもすれば卑俗なものとしてとらえがちではなからうか。

時と場合によっては、これもまた大切なことではないかと思うが……。

ここでは、いわゆる「遊び」ではなく「機械の部分と部分とが密着せず、その間にある程度動きうる余裕のあること」(広辞苑)に相当する「あそび」ととらえたい。自動車のハンドルのあそびがそのよい例であろう。ハンドルにあそびがなかったらどうであろう……。歯車と歯車の間にもわずかのあそびがあり、それを潤滑油が補ってうまく作動しているのである。オイルの切れた自動車が大変危険なことも承知のとおりである。

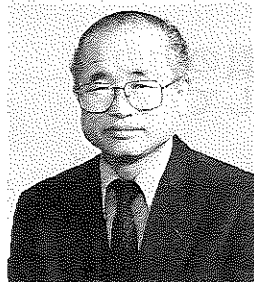
今、この種のあそびが学校や私たち教師にみられるだろうか。

学校も教師も時間的にゆとりがない。これではほんものの教育を行うことは難しいと思われる。

- 改めてゆとりについて考えてみると
- ・ゆとりは目的でなく手段である。(人間性豊かな生徒を育てるための手段である。)
- ・ゆとりは部分でなく全体である。(すべての教育活動にゆとりがなくしてはならない。)
- ・ゆとりは量でなく質である。(ゆとりある教育は、教師がゆとりをもって教え、生徒がゆとりをもって学ぶことである。)

「あそび」と「ゆとり」は直接結びつかない面があるが、どちらも質的な面、心理的な面で大きく関係している点では同じと考えることができる。

心理的なゆとりは、生徒のよさを見出し、それを認め称賛する何気ない一言や教室に笑いを起こす機知に富んだユーモアなどから生じるものである。「あそび」と「ゆとり」をもって生徒に接し、生徒をあたたく、大きく包み込み、好ましい人間関係のなかで学習が発展できたらと考える。



栃木県中学校長会副会長  
鹿沼市立西中学校  
校長 瓦井 芳夫

今日のような高度情報化社会の到来は、知りたい情報を瞬時に手にすることができる反面、好奇心旺盛で十分な判断力がついているとはいえない中学生にとって、知らなくてもよい情報や映像が無差別に注ぎ込まれているといつてよいのではないのでしょうか。

その結果、保護者は時代の変化を先取りしようとする子どもたちの姿にとまどい、人間の生き方や生活の仕方について親としての明確な考えを持ってないまま、子どもを育てているのが現状ではないのでしょうか。

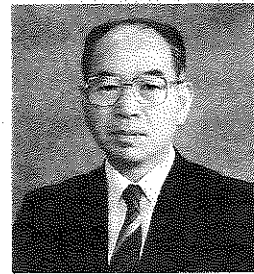
また、学校以外の場で子どもたちの好ましくない態度や行動を見かけたときに、世の中の大人たち(私も含めた)が声をかけることをせずに、見のがしてしまう傾向が強いことも事実であります。

このことから、保護者にとって、自分の子どもは自分たちだけで育てなければならないという意識を強く持つものの、自分たちで指導しようとしてもできない状況から、学校に寄せる期待がかかってないほど高まってきていますし、学校や教師に対する批判の目も厳しくならざるを得ないのではないかと思うのです。

実際、保護者にとっての子育て、教師にとっての指導が、年々むずかしさを増してきていることは、どなたも感じられていることではないのでしょうか。

各中学校では、学校週5日制2回実施に伴う学校運営上の諸問題、いじめや不登校問題に対する対応、新しい学力観に立った学習指導の改善、個に応じた進路指導、生活や行動についての細かな配慮指導等、日常的に取り組まねばならない問題が山積しておりますが、未来を託し、未来に生きる子どもたちをどう育てていくかについて、心の教育を大きな柱としながら、保護者や同じ中学校長同士、ともに力を合わせて取り組んでいかねばと切に感じる昨今です。

### 退任にあたって



前栃木県中学校長会  
前宇都宮市立陽南中学校  
校長 横嶋 孝夫

校長先生方には、ますます御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

私こと、会長在任中は、大変お世話になり、お陰様で無事職務を遂行できましたことを心から感謝申し上げます。

顧りみますと、平成6年度は改訂学習指導領の全面実施第2年次に当たり、創意ある教育課程の編成・実施、学校週5日制月2回実施に向けての実践的研究、高校入学者選抜の改善等を重点にスタートいたしました。そして、理事・協議員会及び各専門部会が、各地区の校長会活動と密接に連携を図り、充実した活動を図ることができました。また、9月の県中学校長会研究大会及び10月の全修協・関修委研究発表会栃木大会も盛大に開催

することができました。これひとえに会員の皆様  
の適切な御協力、御尽力の賜であり厚く御礼を申  
上げます。

さて、今年度は、個性を生かす教育を一層推進  
するために、選抜履修幅の拡大や偏差値によら  
ない進路指導の充実が強く望まれております。また、  
見えにくいじめの問題につきましても、どの学  
級、どの学校においても起こり得るとい認識に  
立って、人権尊重・生命尊重の教育を一層推進  
することが必要です。さらに、学校週5日制月2回  
実施に伴い、その趣旨を生かす教育の在り方につ  
いて、教職員の共通理解を図るとともに、家庭や  
地域社会との連携協力を密にして、教育課程実施  
上、学校運営上の工夫改善に真剣に取り組まな  
ければならないと考えております。

このように中学校教育も様々な社会の要請や山  
積みしている課題の解決に迫られており、年々  
厳しさを増しております。どうぞ会員の皆様には、  
健康に十分留意されて一層の研鑽に励まれ、特色  
ある学校づくりと教育県栃木の建設と振興に御  
尽力くださるよう御祈念申し上げます。

### 平成7年度 各専門部活動計画

#### ☒ 調査部

部長 古橋 正好(河・上河内中)

#### 1 役員を選出と事業計画の作成

平成7年6月2日、栃木県教育会館において  
調査部会を開催し、本年度の組織及び事業計画  
を協議し、次のように決定した。

#### (1) 役員

- 部長 古橋 正好(河・上河内中)
- 副部長 大橋 寛(上・鹿沼東中)
- 〃 高橋 雅義(宇・星が丘中)

#### (2) 事業計画

- ア 全日中教育情報部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施
- イ 県中学校長会及び各専門部活動に必要な調査と資料の提供
- ウ 他都道府県中学校長会及び各教育関係団体との連携・協力並びに資料・情報の交換
- エ 各種調査結果及び資料収集、情報の提供配布

#### 2 「中学校教育に関する調査」について

本調査は、全日本中学校長会教育情報部より  
共同調査を依頼されたもので、6月中に実施し  
た。調査にあたっては、県教委義務教育課及び  
高校教育課等に資料の提供をお願いし、ご協力  
をいただきました。

なお、調査項目中、「一人当たりの担当教科  
数」や「教育課程の編成状況」等については、  
県内全中学校の悉皆調査を要するため、本調査  
部員を通じて各中学校にご協力をお願いいたし  
ました。集計にあたっては、各地区の調査部の  
校長先生方にお骨折をいただきました。ご協力  
に厚く感謝申し上げます。

本調査は、冊子にまとめられ、後日、全日中  
から刊行される予定になっております。

#### 3 教育課題等に関する調査研究について

今後、県下全中学校または校長対象の教育課  
題等に関する調査、研究等に関しては、必要に  
応じて検討し、対処していくことにいたして  
おります。

☒ 研修部

部長 塩澤陽一(宇・一条中)

1 平成7年度組織

部長 塩澤陽一(宇・一条中)

副部長 鈴木節也(上・南摩中)

〃 渡辺紘夫(小・乙女中)

部員 10名(各地区1名)

2 平成7年度研究活動計画

(1) 研究テーマ

ア 主題 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育

イ 副主題 生徒一人一人を生かした教育活動の推進を目指して

(2) 主な研究活動

ア 第17回栃木県中学校長会研究大会の実施

- ・期日 平成7年9月8日(金)
- ・会場 栃木県子ども総合科学館
- ・内容 全体会(研究発表)・分科会・講演会

○研究発表内容

- ① 新しい学力観に立ち一人一人が創意に満ち生き生きと活動できる学校づくり  
—主体性を育てる— (上都賀地区)
- ② 主体性を育てる生徒指導の推進  
—生徒の主体性を育てる指導・援助はどうか— (塩谷地区)
- ③ 学校週5日制月2回実施に伴う学校経営上の諸問題 (安佐地区)

○講演会

- ・演題 わが国経済の現状と課題
- ・講師 財団法人日本経済教育センター派遣の講師(未定)

イ 研究集録の作成

- ① 第17回研究大会内容の編集収録
- ② 各地区実践研究の編集収録

(3) その他の研修部活動

上記研究大会の実施運営、研究集録の作成を中心に、本会における研究の推進を図るため、年間6回の部会を計画している。

☒ 編集部

部長 間宵博(宇・陽西中)

平成7年6月2日(金)、県教育会館において編集部会を開き、本年度の役員及び事業計画を次のとおり決定した。

1 平成7年度役員

部長 間宵博(宇・陽西中)

副部長 高久邦夫(河・古里中)

〃 渋井休耕(芳・久下田中)

2 平成7年度会報発行の構想

- ア 会報は年2回発行する(83・84号)
  - ・内容はほぼ従来どおりとする。
  - ・「地区だより」については、「活動計画」「活動結果」を報告する地区が固定しないように年度ごとに入れ換える。
  - ・後期号(84号)に専門部の活動結果の報告を掲載する。

イ 発行予定日

第83号 平成7年9月1日

第84号 平成8年2月1日

ウ 各号の内容

- ・[第83号] 役員所感、各専門部の活動計画、退任にあたって(前会長)、関東甲信越(埼玉)大会報告、新任校長の一言、地区だより、私の朝会訓話、お知らせ(関プロ大会等)
- ・[第84号] 役員所感、各専門部の活動報告、全日中大会報告、研究学校報告、地区だより、海外教育事情報告等

3 次回編集部会

ア 平成7年11月下旬の予定

イ 議題 会報第84号の内容、執筆者人選等

4 その他

83号、84号とも12ページ編集の予定

☒ 職員対策部

部長 大出廣志(宇・陽北中)

平成7年6月2日(金)、栃木県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画について協議し、事業として福利厚生部との共催で、主題「退職後の生活設計について」のもとに研修会を次のように開催することを決定いたしました。

1 役員

部長 大出廣志(宇・陽北中)

副部長 藤田和夫(南那・馬頭中)

〃 堤亮(足・第三中)

2 事業計画

講話「退職後の生活設計について」

期日 平成7年11月24日(金)13:00～の予定

場所 栃木県教育会館

講師 栃木県教委福利課長、各係長他

3 研修内容

—退職と退職後の課題—

- (1) 医療保険について
  - ・退職後の医療
  - ・任意継続組合員制度
  - ・継続療養制度等
- (2) 退職手当について
  - ・退職手当の種類
  - ・退職手当の算出
  - ・各種課税等
- (3) 年金制度の概要について
  - ・年金の種類
  - ・退職共済年金の内容と仕組み
  - ・退職共済年金の支給等
- (4) 退職者部会等について
  - ・退職者部会について
  - ・退職者部会の加入のしかた等

☒ 進路対策部

部長 川原宗司(宇・姿川中)

平成7年6月2日(金)県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画について協議し、次のように決定しました。

1 役員 部長 川原宗司(宇・姿川中)

副部長 片柳達(安・葛生中)

〃 早川敏朗(那・厚崎中)

2 本年度の事業計画

昨年度の課題を受けて、「中学校における進路指導をどのように進めていくか」を中心課題とし、各地区のアンケート結果を基に活動を推進することにした。主な内容として、①高校入試制度改善に関してどのような要望をしていくか ②高校教育制度改善に関してどのような要望をしていくかを取り上げる。

(1) 第1回研修会

ア 期日 平成7年6月23日(金)

イ 場所 栃木県学生協会館 会議室

ウ 内容 アンケート結果を各地区より持ち寄り、次に掲げる内容について検討しまとめる。

- ・中学校における適正な進路指導の在り方について
- ・新しいタイプの学校・学科について
- ・普通科、専門学科、総合学科の在り方について
- ・県立高校入試の改善について(多様な選抜方法の在り方、その他)
- ・私立高校入試の改善について

(2) 第2回研修会(県教委との協議)

ア 期日 平成7年9月21日(木)(予定)

イ 場所 栃木県教育会館 会議室

ウ 内容 県立高校の入試及び教育制度等の改善 ほか

(3) 第3回研修会

(私立中学・高校連合会との協議)

ア 期日 平成7年11月20日(月)(予定)

イ 場所 栃木県教育会館 会議室

ウ 内容 高校入試制度の改善について

◇ 修学旅行部

部長 松本 忠(宇・横川中)
平成7年6月2日(金)教育会館において専門部研修会を開き、本年度の組織及び事業計画を次のとおり決定した。

1 組織

- 部長 松本 忠(宇・横川中)
副部長 佐藤 安夫(上・栗野中)
芝崎 勝(足・毛野中)
次長 大塚 弘(宇・若松原中)
監事 大木 勝利(芳・七井中)
※関東地区公立中学校修学旅行委員会(関修委)
副会長 金子 隆郎(宇・旭中)
運営委員 松本 忠(宇・横川中)
会計委員 大塚 弘(宇・若松原中)
佐藤 安夫(上・栗野中)
大木 勝利(芳・七井中)
岡田 明義(小・小山第二中)
鈴木 功一(栃・栃木東中)
芝崎 勝(足・毛野中)

2 事業計画

本部会は、安全且つ円滑な輸送と学習効果の向上等修学旅行本来の使命達成に寄与することを目的とした部会であり、主な事業は

- (1) 新幹線(専用列車)利用希望調査
(2) 修学旅行実施調査研究、動向調査
(3) 輸送計画の作成(他県との調整)
(4) 研修会等の開催と参加等

各中学校が安全且つ快適な修学旅行を実施するために各地旅館組合やJR等関係機関との折衝、全生徒参加を目指し修学旅行費等の国庫補助金増額を文部省、厚生省に陳情するなど本部会独自では成し得ない。そこで関東5県の校長会で組織する「関修委」に加盟し、全国修学旅行研究協会と一体となって活動している。

このことをご理解いただき、関修委に未加盟の学校(地区)の加盟を強く希望する。

◇ 福利厚生部

部長 古田土 渡(宇・清原中)
平成7年6月2日(金)の部会において、本年度の正・副部長並びに事業計画を次のとおり決定しました。

1 正・副部長

- 部長 古田土 渡(宇・清原中)
副部長 君島 勇(河・南河内中)
加藤 與士夫(那・湯津上中)

2 事業計画

- (1) 第1回部会研修会 平7.6.2教育会館ア、役員選出
イ. 事業計画作成とその推進
(2) 第2回部会研修会 平7.9.2尚徳会館「生徒手帳」編集会議
(3) 第3回部会研修会 平7.12.24教育会館講話「退職後の生活設計」
講師: 県教委 福利課職員
※ 職員対策部と共催事業
(4) 第4回部会研修会 平8.2.17丸治ホテル「中学生の安全」「新しい道」編集会議
本年度の事業反省と次年度計画について



第47回関東甲信越地区中学校長研究協議会埼玉大会に参加して

事務局長 間宵 博(宇・陽西中)

第47回を迎えた本大会が、6月7日、8日の2日間「彩の国さいたま」の県都浦和市に、一都九県より1,318名の中学校長が参加し、開催された。

今年度より「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」を新しい研究協議会として掲げ、これからの中学校教育の方向について研究発表や真剣な協議が行われた。

第1日、開会式では、田賀谷清三大会会長は、「変革期にある中学校教育の課題は多く、今大会が、これからの課題を謙虚に且つ鋭く掘り起こし、研究討議を重ね、その成果が各県の中学校教育の改善に反映されることを願っている」と大会にかける厚い思いを述べられた。つづいて、文部省、県知事、県議会議長、県教育長、浦和市長、その他来賓から期待と激励の祝辞をいただいた。

文部省説明では、「中学校教育における諸問題」と通して文部省中学校課課長補佐の大槻達也先生から学校週五日制にかかわる問題、選択教科、国旗国歌、環境教育、いじめ問題等々全学校が直面している問題について、解決の示唆となる具体的な説明を伺った。

全体協議は「広い視野に立って教育活動を見直し、新しい学力観に立つ中学校教育の推進」と題して、地元加納中、江原政雄校長から着実な実践に基づいた提案が行われた。

アトラクションとして「秩父音頭」「秩父屋台囃子」が披露されたが勇壮で心を打たれた。

第2日の全体会は、初日の分科会報告、大会宣言文決議のあと、波澤国際学園長、鳥塚恵和先生による「論語と青淵・波澤栄一翁九十二年の生涯」と題する記念講演が行われたが、波澤翁の人間としての生きざまに深く触れることができ、感銘を受けた。埼玉大会が大きな成果を上げて終了したことを伝え、報告といたします。

◇ 生徒指導部

部長 岩上 良明(宇・城山中)

1 事業計画の概要

- (1) 第1回部会研修会 平成7年6月2日 県教育会館

- (2) 第2回部会研修会 平成8年1月または2月

2 第1回部会研修会の内容

- (1) 役員選出
部長 岩上 良明(宇・城山中)
副部長 塩田 富夫(栃・栃木西中)
真岡 親男(塩・矢板中)

- (2) 平成7年度生徒指導部研究課題『登校拒否等学校不適応生徒への対応について』

- (3) 研究の方向
ア 全日中学校長会生徒指導部の研究方針を踏まえ推進していく。即ち、生徒指導全般の課題に広く目を向けながら、現在の中心課題への取り組みを重視して研究を展開し、生徒指導の一層の充実資するための情報・資料の収集及び作成を行う。

- イ 学校全体として、校長をはじめとして各教師がそれぞれの指導場面において、学校不適応の問題に関する指導の機会をどのようにして設定し、積極的な取り組みをしてきたか、実践例をとおして研究していく。

- ウ 「いきいき栃木っ子3あい運動」推進要綱にのっとり、学校が生徒一人ひとりにとって、学ぶことに喜びを感じ、いきいきと生活することのできる場となるよう、学校教育の一層の活性化を図るための積極的実践につながるものとする。

- エ 登校拒否等学校不適応の問題のかかえている基底にあるものとして、生徒及び教師の人権感覚を磨くことが求められているが、この課題にどう迫っていくかをとりあげる。

- オ 各学校または、地域で研究している実践例を提出してもらい、全県的な形でまとめる。

新任校長の一言

教え子たちが開いてくれた祝賀会

河内町立田原中学校長 津久井 陸 雄

「先生、おめでとうございます。早くこの日がこないかと、心待ちにしていました。ささやかですが、さっそく祝賀会を開きますから、ぜひ来てください」電話のむこうでN君のはずむような声がきこえてきた。

私が昭和38年に阿久津中に初めて赴任したとき1年生に入学した生徒ですから、もう32年前、45歳になります。

1年から卒業まで継続して担任しましたし、何もできなかったけれど、毎日学校に行き、生徒に会うのがたのしくたまらなかった。そのときの子どもたちです。

地元高根沢町に在住の教え子たちが多かったが真岡や県外では山形や千葉の方からもかけつけてくれた。

すっかりお父さん、お母さんになってしまったけれど、「先生よかったネ」と杯を交わし喜んでくれる笑顔をじっと見つめていたら、遠いあの時の幼な顔がふと重なって見えてきた。

なぜか涙が流れてとまらなかった。

蛇口のひねり具合

小山市立絹中学校長 鈴木 輝 久

教員になりたての頃、免外で数字を持たされた。のんびりやっているうちに中間テストが近づき、先輩数学教師からテスト範囲はここらまででいいかいと示されたページ数を見て驚いた。私のクラスの進度より遥かに先の方なのだ。

せめてテスト範囲まで終わそうとピッチを上げさっさと終わった。のんびりやったところの出来はまずまずだったが、スピードUPしたところの出来は散々で、先輩数字教師のクラスと私のクラ

スとは平均点20点もの差がついてしまった。

単位時間の生徒の許容学習量と教師の指導量とをコップに水を満たすのに例えれば、私は蛇口を強くひねり過ぎたのだ。コップに入ったかに見える水は勢い余って大部分がコップの外にこぼれてしまい定着していなかったのだ。

生徒各人の各教科のキャパシティは在籍数だけの差がある。個に応じた教育を展開するには必要絶対時間と指導者の「蛇口のひねり具合」が肝要だ。生徒のコップに水がたまる教育を心がけたい。

校内研修の充実

塩谷町立大宮中学校長 富川 黎 司

教特法で「教育公務員は絶えず研修と修養に努めなければならない」とある。

研修の必要性については、誰もが認めるところであるが、校内研修が計画的・組織的に、しかも実のある研修が行われている学校は必ずしも多いとは言えない。その理由としては、教師の日常の多忙、マンネリ化、リーダーシップの欠如、教師全員の時間設定が困難、積極的な研修意欲を示さないなどが挙げられる。

本校は、6学級・15名の教職員で構成され、若さと研修意欲にあふれている。

校内研修は学校という教師の日常生活の場で、自校の教育活動の改善・充実に必要な課題を設定して実施できるので、その効果は大きい。

研修の問題点を一人一人の教職員から汲み上げ、解決に向かって行きたい。研修の方法にはいろいろあるが、小集団・全職員、KJ方式など工夫しお座なりでなく、徹底した研修に取り組みたい。

それが教職員の資質の向上と学校の活性化を図る上で極めて重要であると確信している。

学校の責任者として

葛生町立常盤中学校長 西 沢 松 男

学校経営の責任者として常盤中学校に赴任し、

地区だより

研修計画の概要

宇 都 宮 地 区

平成7年度の宇都宮地区の校長会は、2名の転採校長、7名の新任校長を迎えたことにより、会員の約半数が入れ替わりました。第1回の校長会を4月6日に開き、研修計画や役割分担が提案・承認され、新たなスタートを切りました。承認された研修計画の概要は次のとおりです。

4/6…組織づくり、研修計画、全日中、関プロ大会関係参加者調整、本市会場での全国、関プロ大会への協力体制の確認 4/13…河内郡との合同研修、組織、研修計画の調整、情報交換 6/22…先進校視察 7/11…宇河中・高校長連絡協議会① 11/17…文化財視察 12/11…宇河中・高校長連絡協議会② 2/6…反省 次年度の計画、教育をめぐる諸問題についての情報交換

研究主題は次のとおりです。

「生徒の主体性を育てる援助指導はどうあればよいか」～学校行事を通して～

この主題は、現在、学力の基礎・基本として重視されている意欲や主体性を取りあげ、これらの学力は生徒の実践活動や探求的活動を通すことによって、より効率的に伸ばすことができるのではないかと考えに基づいて設定されたものです。

研修計画の概要

上 都 賀 地 区

本地区は32名の会員で構成され、瓦井芳夫会長（鹿沼西中）を中心に、研修テーマ「新しい学力観に立つ教育活動の推進」に基づいて、次に掲げるような課題の研修を進めている。

- 1 体験的な活動を重視し、生徒の興味、関心を生かす教育活動の実践
- 2 新たな視点に立つ教育活動推進のための現職教育
- 3 心豊かで主体的、創造的に生きる生徒の育成
- 4 新しい学力観を生かし、生き生きと活動する

4カ月になろうとしています。赴任する前は、どんな学校経営をしたらよいのが、いろいろ考えていましたが、本年度の教育課程はもとより、校務分掌等が前校長のもとで、立派なものができており、一安心というところであった。

よく、「校長が代われれば…」と言われていました。本年度は前校長と教職員が昨年の学校評価の反省を踏まえての教育課程であり、校長が代わっても目に見える変化は望めない。しかし、これまでの常盤中学校の伝統を生かした上での、私なりの教育観も学校経営に出していきたい。

私は、教職員一人一人の良さを発見し、認めていくことをお願いし、生徒一人一人に好かれる先生になること期待している。私も教職員一人一人に好かれる学校経営を実践し、新しい常盤中の伝統を築いていきたい。

研修を終えて

足利市立愛宕台中学校長

太 田 武 久

新任校長としての市、県、国による研修も先日の東京虎ノ門における全国新任校長研修会において無事(?) 終わりを遂げた。勿論、これで終了でなく、更なる研修の必要性をその研修の度に痛感させられた。特に尾木東京女子体育大学教授による「いじめ問題の解決と生徒指導」における最近の子供の生活と意識変化に対する研究を保護者とともに進め、対策を考える必要を感じた。この辺への共通の意識が欠けると、お互いの非を言い合うようになる危険性があるように思われる。

また、教育関係者以外の講演に教えられるものがあつた。特に、二上達也日本将棋連盟会長の全人格的にその道に精進していく素晴らしさと超一流の人の凄さを淡々と語り口のなかからも感じ取れた。さらに、唐津一経済評論家の国際経済のなかの日本の立場の講演を聴き、経済に対する認識の薄さを恥ずかしく思った。今後も広い視野をもって、研修を続け、教職員のリーダーにふさわしい人間になるよう精進していきたい。

学校体制の確立

5 地域に根差した特色のある教育活動の実践  
研修を進めるに当たっては、年3回という少ない回数  
の全体研修の機会が十分に生かされるよう、会員各自が  
具体的な研究・実践資料を持ち寄り、建て前でなく本音  
で話し合いができるよう心掛けている。

9月の県中学校長会研究大会では、地区を代表して、  
研修部長の南摩中学校鈴木節也校長が研究発表を行う  
予定である。

今年度の研修

栃木地区

栃木市校長会は小学校15校中学校7校22校で構成され、  
本年も8回の研修会を計画している。本年度の小中合同  
研修のテーマは、「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる  
教育の推進」を掲げ、中学校部会ではこのテーマをもと  
に、次の内容を課題として研究推進することにした。

- (1) 学ぶ意欲を育てる学習指導と学校経営のあり方
- (2) 自己を生かす能力を育てる特別活動と学校経営のあり方

その他小中合同研修の場では、次の3つの課題にも  
取り組んでいる。(1)いじめの問題への解決に向けて  
(2)適正な部活動のあり方 (3)情報開示への学校として  
の対応 これらの課題を分担し、すでに2回の研究発表  
を行った。

一方、教育事情調査も2回計画され、そのうちの1回  
は、6月に黒磯市高林中でお世話になりました。第2回  
目は11月に、本市と研究テーマが近い京都府勝山中  
の訪問予定がある。研修や見聞を広め、資質の向上  
を図ることを計画している。

各校が個性的な小山地区

小山地区

小山市中学校長会では、年2回の先進校視察や月1回  
の定例会、市P連との合同研修、市内高等学校長との  
研修会、その他、市の行事等への積極的な参加など  
充実した活動を展開している。

1回目の視察は、全日中総会に泊で参加し、先

進校の視察の後、歓迎会を兼ねて懇親会が盛大に行  
われる。2回目の視察は、会長・副会長の意向を十分  
反映した2泊3日コースを選択し、校長として新しい  
課題をいかに解決していくかをテーマに、分担した  
領域を責任をもってまとめていく。

定例会の午前は、全体会で小学校と合同で行われ、  
教育委員会等指示・連絡、午後は、中学校部会で、  
緊急かつ必要事項の協議やテーマの研修を行うが、  
毎回小学校部会より時間を要している。

研修テーマは、「個性を生かす教育を推進する学校  
経営」で2年目となるので、実際のなまとめができる  
ものと期待される。

要領の趣旨のとおり各学校が創意工夫した教育活  
動を推進しているのが、小山市の大きな特徴である。

研修活動の充実を目ざして

下都賀地区

今年度は、新しく2名の校長を迎え、会長には石  
橋中学校の山本幸正校長が選任された。下都賀郡校  
長会は各市町のそれぞれ独自性のある学校経営者  
の集まりであるが、和気あいあいの中に本音で討  
議できる雰囲気があり、様々なアイデアや苦勞など  
が自校の学校経営に正しい考え方をもって取り入  
れられる良さがあることである。

事業計画は昨年と同じく下記のとおりである。

- (1) 研究テーマに基づく研修
- (2) 学校経営に関する情報交換及び連絡・調整
- (3) 各種研究会への参加
- (4) 県外教育事情調査及びその他の調査

研修テーマ「たくましく生きる生徒指導」～集団  
における自己表現～については積極的な研修をして  
いる。7月10日には文部省指定生徒指導総合推進  
校である野木中学校の実践のようすを拝聴した。こ  
の中では、日常の生徒に目を向けた地道な学校経営  
の在り方が大変参考になった。また、11月1日には  
文部省指定研究校(平5～7年度)としてのエイズ教育  
の成果が発表される予定で大いに期待されている。

学校は生徒が動き、語り合うところである。生徒  
の活性化を目ざした教育をするために校長自らが  
研修に努めなければならないことを痛感している。

研修の充実と親睦と

那須地区

本年度最初的那須地区中学校長研修会は、平成7  
年4月7日(金)に5名の新会員を迎えて開催され  
た。まず最初に新しい組織づくりが行われ会長に西  
那須野中学校の川島武夫校長が選出された。そして、  
本年度の研究テーマや研修内容が検討されたように  
決定した。

「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校  
教育」をうけて、「学校週5日制の推進と新しい学校  
経営」を主題としてかかげた。

研修の視点としては、

学校週5日制に対応する学校経営のあり方につ  
いて「生徒がこれからの社会において、主体的に

生きる力を育成する」という学校週5日制導入の趣  
旨・基本理念を踏まえ、下記の内容について研修を深  
める。その具体的な内容として、

月2回実施についての(自校として)基本的な考  
え方を明確にし、研究を推進するにはどのような  
視点に基づき、リーダーシップを発揮すべきであ  
るか。

そして、6月20日(火)には、小中合同の研  
修会がもたれ、後半はそれぞれに分かれて研修が  
深められ、熱心に討議がなされた。

また、今年も退職され先輩の校長先生方との懇  
親会が8月10日の夕方よりホテル・ニュー塩原  
において開催される予定である。

私の朝会訓話

黒磯市立高林中学校長 坂川敏隆

来週は県民の日になんだ高中の伝統行事である  
学区内の美化活動が行われます。そこで、今朝は  
奉仕活動の大切さについてお話しします。

インドで貧しい人々や病気で苦しんでいる人々  
のために働いているマザー・テレサは、「貧しい  
者は心が美しい」と言っています。

ある日、かの女が自分の得たわずかの食料を  
貧しい家庭の母親に渡したところ、その母親は、  
半分を隣の家に持って行って与えたそうです。  
テレサは驚いて、わずかな量であなたの家の分  
としても足りないのに、どうして隣に分けたの  
かと尋ねたところ、その母親は、隣の人は  
もう何日も食べていないのですからとほほえ  
んで答えたそうです。

奉仕とかボランティアという言葉は誰もが知  
っています。阪神大震災の折には、本校でも生徒  
会が中心となって募金活動が行われました。こ  
のことは大変素晴らしいことです。けれども、  
とかく奉仕活動というと、募金や老人ホーム慰

問など単に他人に何かをしてあげる、多少余裕  
のある人が困っている人々を助けてあげるとい  
うように誤解している人が多いように思われ  
てなりません。

最近では、少しでも骨の折れる仕事を嫌う若  
者が多く、まして自分から進んでという例は極  
めて少ないとされています。おまけに、仕事を  
すると、恩着せがましく報酬をねだるという  
光景も見受けられるなどとても残念なことです。

私たちは、誰も自分一人の力では生きて行  
くことができません。多くの人々に助けられ、  
支えられているからこそ毎日が無事に過  
ごせるのです。ですから、この世に生を受け、  
生きていく限り、わずかな食物を隣人に  
分けたあの母親のように、すこしでも人の  
ために奉仕することは、人間として、  
当然の務めなのです。マザー・テレサは  
私たちにこう語りかけていると思いま  
すが、さて皆さんはどのように受けと  
めたでしょうか。

## 子どもの文化活動育成に努める中文連

栃木県中学校文化連盟会長

中里三男(宇・陽東中)

これからの中学校教育に求められるものとして、文化活動の充実向上が挙げられます。豊かな感性と、豊かな創造力を育てることが、心豊かな日本人の育成を目ざす新しい学力観にたつ教育の土台になるものであると思っています。

そのためには自らの興味・関心・意欲で挑戦し、体験し、創造していく文化創造活動の場を広げ、活発に展開していくことがぜひとも必要です。

全日本中学校長会では、活動の重点の一つに「全国中学校文化連盟の設立に向けた活動の推進」を掲げています。現在、東京都、栃木県、沖縄県、山形県、岡山県、鳥取県、岩手県等では文化活動の総合発表会を実施したり、設立準備等に取り組んでいるなどの積極的な動きがみられます。

本県では、本年度10地区にも中文連が設立され各地区での文化活動の展開が期待される所です。日頃取り組んでいる中学生の文化芸術活動には目をみはるものがあり、感嘆させられます。中文連は中学生の地道な努力や情熱に報いる努力をしていきたいと思っています。

### お知らせ

#### 第13回関東ブロック中学校社会科教育研究大会栃木大会について

関ブロ中社研栃木大会実行委員長

山吉泰夫(宇・宝木中)

本県中学校教育研究会社会部会では、環境教育がますます重要性を増す今日の社会情勢を踏まえ、下記の主題を掲げ研究に取り組んできました。本大会が盛大に開催できますことを期待しておりますので、県内の中学校及び社会部会の会員の皆様に、ご協力とご支援をお願いいたします。

- 1 大会主題 「環境問題を主体的に追求する生徒の育成」－課題学習・選択社会を通して－
- 2 主催 関ブロ中学校社会科教育研究会  
栃木県中学校教育研究会社会部会
- 3 共催 全国中学校社会科教育研究会 栃木県教育委員会 宇都宮市教育委員

会 ほか

- 4 期 日 平成7年11月10日(金)
- 5 会 場 全体会場 宇・泉が丘中  
公開授業・分科会会場 宇・陽東中  
(地理的分野・選択社会) 宇・泉が丘中  
(歴史的分野・選択社会) 宇・陽南中  
(公民的分野・選択社会)
- 6 内 容 公開授業・分科会・全体会・講演会
- 7 講 演 演題「社会科と環境教育」  
講師 文部省初等中等教育局教科調査官 澁澤 文隆先生
- 8 参加者 1都6県の教員

#### 第29回全国女子体育研究大会 栃木大会のご案内

栃中教研保健体育部会長

山本敬子(宇・宮の原中)

表記の研究大会が宇都宮市において開催されます。本研究大会を、盛大かつ爽り多いものにしたと考え、着々と準備日程に従って研究・運営面が推進されてきました。

栃木大会では、体育の教育的課題を新たな視点から見直し、「豊かな感性・創る喜び・生きぬく力」を大会テーマと定め、7つの分科会で、教育現場の実践に基づく研究発表が行われます。

各学校におかれましては、深いご理解とご支援の程お願いいたします。なお、全国大会ですので多数の参加を期待しております。

以下、大会の概要を列記し参考に供します。

- 1 主 催 (協)日本女子体育連盟 県教育委員会  
宇都宮市教育委員会 県女子体育連盟
- 2 期 日 平成7年11月16日(木) 17日(金)
- 3 研究テーマ (中学校部会)  
楽しさを主体的に学び合おう  
－男女の特性・個性を生かして－
- 4 会 場 第1日 宇都宮市立宮の原中学校  
第2日 宇都宮市文化会館
- 5 内 容 分科会 公開授業 4学級、分科会7部会を設け、研究発表と研究協議  
全体会 特別講演 公開演技  
講師 西川扇祥氏(舞踊家)
- 6 参加者 幼・小・中・高・特殊教育・大学・社会体育等の指導関係者(男女を問いません)